

令和6(2024)年度 学校評価

教育目標	自立と社会参加を目指し、一人一人の個性や教育的ニーズに応じた教育により、社会の中で主体的に生きることができる健やかで心豊かな児童生徒を育成する。
指導方針	「チームなど」として、一人一人の実態を的確に把握し、教育的愛情をもって指導する。
目指す学校像	児童生徒がもてる力を高めて生き生きと活動できる学校
生活目標	明るく つよく 美しく
重点目標	1 一人一人に応じた指導の充実 (児童生徒の主体的な取組を大切にした授業づくりの充実)(家庭との連携を密にした生活力を高める指導の充実)(不登校児童生徒への対応の充実)(ICT(情報通信技術)を活用した授業実践の工夫) 2 安心・安全な教育環境の整備と充実 (ICTを活用した安全対策の充実)(実践的な防災安全教育の充実)(危機管理マニュアルを活用した職員研修の充実) 3 保護者等、地域との連携の充実 (ICT等を活用した適切な情報発信の工夫)(適切な情報交換による共通理解の促進)(地域活動の一層の充実と啓発活動の推進)

総合評価 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C 課題があり改善が必要

1 分掌部・各学部の目標及び評価

重点目標	担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)	総合評価	成 果	課題と改善策
(一)一人一人に応じた指導の充実 ・不登校児童生徒への生活力向上 ・家庭・学校・社会との連携強化 ・ICT等を活用した授業実践の工夫	小学部	・児童の生活力を高めるために、児童一人一人の実態に合わせた指導を保護者等や他の職員と情報共有し、「チーム」で、より効果的な指導に取り組む。	・保護者等と懇談、連絡帳を通して保護者等と情報交換をし、実態、目標、具体的な実践の様子について、共通理解を図れたか。 ・学部会、学部懇談会、保護者等懇談の機会にホームワーク週間について共通理解を図り、家庭と連携した取り組みができたか。 ・工夫された実践例を学部内で共有できたか。 ・生活訓練様を活用した実践的な取り組みができたか。 ・ホームページを活用し、学習の様子や指導の工夫について、情報発信することができたか。	A	・保護者等と実態、目標、具体的な実践の様子について、共通理解を図ることができた。ホームワーク週間の機会を利用して、家庭と連携した取り組みができた。その実践例をホームページにあげ、学部内や保護者等と実践例を共有する機会となった。 ・宿泊学習や修学旅行の事前学習で、生活訓練様を活用し、入浴学習などの実践的な学習を行うことができた。視覚支援教材やチェック表を持ち帰り、協力を依頼することで、保護者等と協力して取り組むことができた。	・工夫された実践例をホームページにあげたが、職員の共有方法としては十分ではなかった。学部会で定期的に実践例を共有する機会を作るなどの工夫をする。
	中学部	・「職業・家庭」「生単」の授業などで、生活に関する活動を生徒の実態に応じて指導を充実させ、家庭でも取り組みやすくなるように保護者等に情報を発信する。	・「職業・家庭」「生単」の生活に関する指導法を見直しで充実させることができたか。 ・生活に関する授業の取り組みを定期的に保護者にフィードバックできたか。 ・長期休みには家庭での手伝いとして取り組める活動を提案して、家庭でも実践してもらい家庭での様子を伝えてもらうことができたか。 ・ホームページを活用して、週1回程度授業の様子を発信することができたか。 ・特に生活力を高める「職業・家庭」「生単」などの授業の様子を発信できたか。	B	・教科等連携において「職業・家庭」の各学年の指導内容を見直した。それぞれの内容の系統性を考えて段階的に実施できるように年計の変更を予定している。指導法についても情報を共有したが、まだ十分でなかった。 ・長期休みの前には学習した内容を保護者等にお知らせし、手伝いとして家庭で取り組めるようにした。その際には、家庭での様子をメッセージとして伝えてもらうこともできた。 ・ホームページは各学年様々な学習の内容を取り上げて、週1回程度発信することができた。	・「職業・家庭」の内容が見直されたことで、パワーポイントの教材が次の年にもうまく活用できるようにする。また、指導法に関しても統一できるように情報を共有していく。 ・次年度の新しい教科書の導入を受けて多少の変更が必要になってくるが、基本的などの学年で何を狙いたいかがはっきりできたので、スムーズに移行できるようにする。 ・ホームワーク週間に合わせて、中学部としては学校で行った授業を生かしての手伝いを今後も継続していく。 ・ホームページは各学年、日頃の学習の様子に分かるような記事を書いていた。負担にならない程度で今後も継続していく。
	高等部	・担任等、学部主事、生徒指導部、関係職員が連携し、不登校生徒への対応の充実を図る。	・不登校の傾向を逃さずに、チームで情報共有ができたか。 ・組織的な対応ができたか。 ・適切な支援が実施できたか。 ・家庭や関係機関と連携し、対応できたか。	B	・不登校(傾向含む)生徒について、関係職員が十分に情報共有し、対応策の検討や実施にあたり組織的に対応できた。 ・進路変更を選択した生徒について、家庭や関係機関と連携し、適切に対応できた。 ・新規に自力通学となった生徒は2名。その他数名が自力通学の練習に取り組んでいる。自力通学で課題のある生徒に対しては、担任等と生徒指導部が連携して素早く対応ができ、改善されたケースもあった。	・課題となる事項はなかった。現在の取組を継続していく。
	訪問教育学級	・様々な情報技術を授業で活用し、なす療育園の集団学習に各家庭児童生徒が参加する機会を確保し、つながりを重視した授業実践を進める。 ・移動が難しい児童生徒の学習経験拡大につながる新たな取組について検討し、活動の充実につなげることができる。	・日常的に使用機会を設け、友達や教師とのつながりを意識した授業を実施することができたか。 ・実施後の振り返りや授業研究会を通して、ICT機器を効果的に活用した授業実践を蓄積することができたか。 ・スクーリング、校外学習、行事等でのICT機器活用を検討し、実践できたか。	B	・行事やグループ学習の中でZoomを利用したことで、なす療育園と各家庭の児童生徒がリアルタイムでつながる授業を実施することができた。 ・実践を繰り返すことで、画像や音響をより効果的に設定することができるようになった。 ・タブレット端末やその他支援機器を利用して、動画やパワーポイントで作成した視聴覚的教材を授業の中で有効に活用することができ、児童生徒の主体的な活動につながった。	・画像や音響の調整が難しい場合やインターネット接続に適さない環境での対応などのいくつか課題が挙げられる。情報部と相談しながら課題を検討し、引き続き授業実践を蓄積していく。
	教務部	・充実した授業作りや行事のための基盤を整える。	・職員のスキルアップのために研修会を企画・運営できたか。 ・外部研修の周知や受講のサポートを丁寧に行うことができたか。 ・教科用図書の活用を推進し、授業実践や教材の紹介ができたか。 ・帳簿の管理を徹底し、教材の整理や迅速な修繕に努めたり、効果的な教材について随時紹介したりすることができたか。 ・儀式(始業式・終業式・卒業式)の実施方法を確立し、より充実した式を実施することができたか。	B	・夏季休業中に実施したブチ研修は、資料の回読等を省き簡易に実施できたとともに、自主的に参加する教員が多かった。教科書に関する研修も実施できた。実施後、指導に生かされている場面が見られる。 ・備品・消耗品については、全職員の協力を得て台帳管理を行うことができた。 ・儀式については、随時校内の指導体制や環境を考慮し、実施方法について検討し実施することができた。	・校内研修について、教員から研修希望のテーマが上がっている。他の分掌と連携が必要なテーマもあるので、次年度も充実した研修を立案・実施していく。
	学習指導部	・校内研究等を通して研究や話し合いを深め、児童生徒の主体的な取組を大切にしたい一人一人に応じた授業作りを生かす。	・校内研究を通して事例検討会や授業研究を行い、学習指導の充実を図ることができたか。 ・アセスメントを正しく行い、児童生徒を客観的に理解することができるよう、検査やその方法等について職員に向けて案内することができたか。 ・自立活動指導充実事業等により事例研究等を行い日々の指導に役立てることができたか。 ・ホームワーク週間を実施し、家庭との連携を図ることができたか。	B	・校内研究を通して学習指導の充実に向けて話し合いを実施したり、授業に反映させたりすることができた。 ・夏休みに太田ステージをはじめ、いくつかの検査についての研修を行うことができた。 ・自立活動の事例検討会を開き、日々の指導について小さいグループで共有することができた。 ・ホームワーク週間を実施することにより、児童生徒の生活面の目標や成果を確認することができた。	・年間指導計画や単元指導計画などをさらに充実させていく必要がある。
特別活動部		・各活動や行事において、児童生徒が主体的に取り組める活動内容を工夫し、行われた活動の内容や児童生徒の様子を保護者等だけでなく地域に対して適切に情報発信する。	・行事当日だけでなく、前後も含めて児童生徒の主体的な活動を盛り込むことができたか。 ・他の分掌部と連携を図り、校内外に対してホームページや広報誌で適切な情報発信を行うことができたか。	B	・なとくフェスティバルでは、実行委員の児童生徒の話し合いの場を設け、オープニング演技を工夫して実施することができた。また、児童生徒の実態に合った活動内容を設定し、練習を繰り返したことで、自信をもって自分から発表や販売に取り組むことができた。 ・選挙管理委員では、新しい告示方法で生徒の活躍の場を設けることができた。 ・ホームページを更新し、活動の様子を発信することができた。	・実施計画などを見直したり、児童生徒の意見を取り入れたたりして、活動を増やすことができたが、活動場面が行事に限定されてしまいがちなので、引き続き活動内容を工夫する。 ・なとくフェスのホームページについては、誰がどの記事を書けるか明確でなかったり、時系列がずれてしまったりしたので、事前に調整しておく。

総合評価 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C 課題があり改善が必要

重点目標	担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)	総合評価	成 果	課題と改善策
・・・ 防災・安全 実践的な 防災活動 の充実 と 環境の 整備と 充実に 関係する 教員の 研修の 充実	生徒指導部	・新たに完成した危機管理マニュアルをもとに、情報部と連携したICT(安否確認システム等)を活用した引渡し訓練を実施する。 ・いじめ問題について、「いつでも、どの学校においても起こる」認識をもち、教職員一人ひとりが自分事として捉えられるよう啓発しながら、教育的解決策や再発防止策を講じる。	・訓練等を通じて教職員一人一人の防災意識を高めることができたか。 ・危機管理マニュアルに沿った基本的な対応を適切に行うことができたか。 ・ICT(安否確認システム等)を活用した新しい訓練等を実施することができたか(今後の活用に向けて課題を把握することができたか)。 ・いじめ情報共有シートを適切に活用することができたか。 ・教育的解決や再発防止に向けて、適切な取り組みや対処ができたか。 ・必要な啓発や研修を適宜実施することができたか。	B	・緊急時引き渡し証をスマホ画面で発行し、その提示を以て引き渡し者の確認を行うなど、ICTを活用した訓練を行うことができた。 ・各種避難訓練等の実施によって、教職員一人一人の防災意識を高めることができた。 ・いじめに関する研修を定期的に行うとともに、いじめ情報共有シートへの入力があった際には、その都度学部内での発信を行い、内容によっては該当学部を超えての啓発を行うことができた。	・緊急時引き渡し証の発行と訓練が同日だったこともあり、多くの混乱も見られた。新入生にはオリエンテーション時に暫定版を発行しておき、入学後に当該年度の公式版を一齐に発行して、引き渡し訓練当日の混乱を避けていく。 ・回数が多いと感じる部分もあるので、避難訓練自体の意義や目的を再確認し、各事象における基本的な対応を全教職員が理解して取り組んでいけるよう、さらなる啓発に努める。 ・職員研修は年3回実施しているが、初期対応に関するチェックシートの結果から、法的な理解が不足している部分も感じられた。研修がより効果的にいえるよう、回数や内容、扱うテーマを精選して実施していく。 ・同じような事案の発生が食い止められるよう、部や係からの啓発を引き続き行っていく。 ・先生方の協力を得るだけでなく、部や係からの発信や主導がより適切に行えるよう、取り組み目的等をより明確にし、次年度に向けて改善を図っていく。
	寮務部	・大きな地震の続いている昨今、舎生全員の安全を確保するため、避難態勢をとる訓練(ショート訓練)を月に1度実施し、より実践的に、告知なしでの訓練を実施する。	・告知がなくても、舎生は場に応じた避難態勢をとり、安全を確保することができたか。また、職員は全舎生の安否を確認、把握することができたか。 ・夜間の職員が手薄な時間帯や、就寝後を想定した訓練を実施し災害に備えることができたか。	A	・ショート訓練では、告知ありから告知なしへ、段階的に実施した。下校時から就寝時、起床時と様々な時間帯で行うことにより、おおむねの舎生がそれぞれの状況に応じて避難態勢をとり安全を確保することができた。 ・職員は、夜間の手薄な時間帯も、舎生の安全確保と安否確認、報告までを確実に行うことができた。	・来年度も生訓練を使用しての宿泊体験では、多くの児童生徒が宿泊する見込みなので、マニュアルを見直すとともに、実践的な防災訓練を継続していく。
	健康指導部	・児童生徒が健康、安全に学校生活を送るために、病気や感染症の対策をし、環境を整備する。	・病気や感染症対策を適切に実施し、掲示板等を通して病気や感染症の情報、対応方法を共有することができたか。 ・救命救急法の研修会やプール活動実施前の講習を実施し、緊急時や熱中症等への対応を適切に行うことができたか ・安全点検等を適切に行い、不具合や危険な個所に早期に対応することができたか。	A	・感染症に関する通知を作成し、学校で行うこと、家庭で行ってほしいことを整理して保護者等に伝えることができた。教職員にはさらに詳しい感染症対策を周知し、情報を共有することができた。本校の感染症状況をその都度HPで更新できた。 ・救命救急法の研修を3回に分けて実施して、小学部、中学部、高等部はプール活動開始前に心肺蘇生法やAEDの使い方を確認できた。また、プール活動の事前講習等で熱中症計の扱い方や見方を周知し、熱中症への意識を高めることができた。 ・係や公仕の協力で対応できるものは、迅速に対応することができた。	・インフルエンザや新型コロナに関する情報は十分周知し対策することができたが、地域で流行していたマイコプラズマや手足口病等についても情報を伝えられるようにしていく。 ・次年度もプール活動前に、講習を受けられるようにスケジュールを調整する。 ・経費が掛かるような修繕は事務と連携し、安全面を優先しながら、計画的に修繕を進めていく。

総合評価 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C 課題があり改善が必要

重点目標	担当部署	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)	総合評価	成 果	課題と改善策
（３）保護者等、地域との連携の充実 ・ICTを活用した適切な情報発信の促進 ・地域活動の充実と共通理解の促進 ・生活の質の向上	情報部	・学校ホームページを、より見やすくするとともに、適時適切な情報発信をすることで、保護者等や地域との連携を充実させる。	・スマートフォンでも見やすいレイアウトにすることができたか。 ・更新の手続きを簡素化したり電子化したりするなど、新しい記事を迅速に公開するためのシステムを構築することができたか。 ・各校務分掌部や各学部と連携し、内容を充実させたり更新の頻度を高めたりすることができたか。	A	・スマートフォン対応のレイアウトにすることで、保護者等が最新の記事や目的の記事をすぐに閲覧できるようになった。 ・ホームページ原稿の承認フローを電子化したことで、新しい記事を申請当日から1日程度で公開することができるようになった。 ・各校務分掌部や各学部の尽力により、充実した内容の記事を継続して公開することができた。	・現行のレイアウトだと、欠席等連絡や学校見学申し込みのリンク(QRコード)がかなり下の方にあるので、入力フォームへのアクセスに時間がかかる。保護者等には、年度当初に「ブックマーク」への登録を勧め、簡単に入力フォームにアクセスできるようにする。 ・ホームページ原稿の写真は、児童生徒の顔をできるだけ加工しないことになっている。ホームページに掲載する写真を撮影する際には、顔が写らないように工夫するよう周知する。
	地域支援部	・地域との交流活動やニーズに応じた事業を行うことで、本校についての理解や地域との連携を深める。	・地域のニーズに応じた事業(学校公開、公開研修、巡回相談など)を計画・実施し、センター的機能を果たすことができたか。 ・地域の方との交流活動や地域の活動へ参加するなど相互理解を深めるための活動を実施することができたか。 ・交流活動をはじめ、本校の教育活動の様子をホームページや地域だより「ほほえみ」などにより伝えることができたか。	B	・学校公開において多くの方に児童生徒の様子を見てもらうことで理解を深めたり、要請に応じた巡回相談を実施し地域の幼保小中学校へ支援を行うなどセンター的機能を果たすことができた。 ・間接交流もあったが、コロナ前に実施していた交流活動を全て再開することができた。また、大山公民館からの要請を受けて「大山ギャラリ」での作品展示を新たに始めた。学校支援ボランティアでは、蔵書点検や農園整備など学校のニーズに応じた取り組みをボランティアと連携しながら行うことができた。さらにその都度活動の様子をホームページに載せたり、定期的に地域だよりで知らせたりすることができた。	・より多くの地域の方に学校の様子を見てもらえるよう学校公開の仕方に工夫・改善が必要である。また、地域の教員に対する支援として、興味関心のある内容の研修を行うことができるよう内容や啓発の仕方、募集方法などに工夫・改善を行う。 ・学校支援ボランティアの活用の拡充を行う。(ボランティアスクールの再開、学校業務ボランティアの拡大)
	進路指導部	・学校卒業後の進路状況や課題を確認し、保護者等へ居住地域の進路情報を分かりやすく適切に提供していく。	・保護者懇談等を通して、各学部ごとの保護者等が進路に対する興味・関心や課題等を収集することができたか。 ・「福祉施設説明会」では、保護者等、福祉事業所双方の要望や課題を収集することができたか。 ・進路指導部内で、定期的に情報の共有化を図るとともに、各学部へ伝え情報の共有を行い、保護者懇談等で伝えることができたか。 ・研修会等を行い、卒業後の進路について情報共有や意見交換を行うことができたか。	B	・保護者等から寄せられた居住地周辺の福祉事業所や短期入所等の福祉サービスについての質問等を学級担任を通じて情報提供ができた。 ・「福祉施設説明会」では、参加申込書に福祉事業所への質問等の記入欄を設けることで、保護者等が知りたいことを把握することができた。質問等は福祉事業を伝えることで、事業説明等で活用することができた。終了時のアンケートでは、「満足できた」との回答を98%得ることができた。 ・部会終了後、情報共有として新しい事業所のサービスや定員状況、市町の福祉課の動向について各学部へ伝達を行った。 ・夏季休業中に、企業見学や就労支援・生活支援センターの研修会の開催することができた。	・教員向けに新設の福祉事業所やサービス等が閲覧できるように整備する。 ・福祉事業所のA型、B型の違いや生活介護などのサービスについて、保護者等に周知ができるようホームページ等の活用などを行う。 ・進路に関係した行事等で扱った資料を掲載し、情報発信等を行う。 ・課題として、情報の発信の仕方があげられる。進路の行事等で、個別に受けた質問等を個別に回答していた。そのため、限られた人数にしか伝わらない状況となった。改善として、周知が必要と思われるものはホームページ等で行事等の記事とともに情報発信するなどの工夫をする。
	渉外部	・会員および地域等で連携して、PTA活動のより一層の充実を図る。	・それぞれのPTA活動について、会員に理解してもらえるよう説明をしたり活動の補助をしたりすることができたか。 ・会員との話し合いを行いながら、各活動を積極的に行うことができたか。 ・実施したPTA活動について、PTA新聞やホームページに掲載することができたか。	B	・各支部会の実情はあるが、各支部で特色のある活動を行うことができた。また、数年ぶりにPTAバザーを役員とボランティアで開催することができた。 ・活動内容については、ホームページを利用して発信することができた。	・来年度以降は、これまで行ってきた活動を見直し、より一層活動の充実を図る。また、PTA活動の参加者が増えるような情報発信や活動内容の精選を行う。